

『令和5年度看護師職能委員I交流会』を開催しました  
日時：令和5年9月30日10時～12時  
会場：岩手看護研修センター3階研修ホール  
参加者：16名（各支部・本部より）

テーマ

：「地域の課題やニーズに応じた看護提供の現状と病院看護の育成や活用における課題について」

昨年度はコロナ感染症の感染拡大により書面開催となった交流会ですが、今年度は対面で開催することができました。

職能委員長から看護師職能I病院領域の2022年度活動報告と2023年度活動方針について報告があり、コロナ禍の影響を受け、急性期病床では色々な患者が混在し、スタッフ不足により業務が回らない状況が続いている。その中でも看護師に求められる役割は大きく、その役割を発揮していくために「病院看護職における多様で柔軟な働き方」「看護の専門性の発揮に資するタスク・シフト/シェア」の推進が必要となっているとのことでした。看護管理者を中心に自病院の状況の情報収集や課題について、タイムリーに対応する姿勢が必要であることが伝えられました。

その後、「地域につなげるための自病院の看護提供の現状と看護師の育成や活用における課題」について意見交換を行いました。コロナが5類に移行されてからも、参加された委員のほとんどの病院がクラスターを体験しており、対応状況等の話から、まだまだコロナによる影響は大きく、今でも現場対応に苦慮されていることが理解できました。そのような状況下でも、各施設に設置されている入退院支援センターや連携室のスタッフによりケアマネ等、外部との情報共有は改善されてきていると各支部より報告がありました。

また、面会制限や面会禁止などで書類や届け物のやりとりが中心となり、患者・家族への情報提供不足やつながりが希薄になっていると感じており、看護の質が少し落ちているのではとの心配の声も聞かれ、来院した家族への言葉かけの大切さを改めて考えさせられました。

その影響は患者・家族だけでなく、病院で働く新人看護師や若手看護師の退院調整「地域につなぐ力」の弱まりにも表れているとの意見も出されました。地域で働く職種は知っていても、それぞれがどのように働き、連携しているかを知る機会が少なく、退院支援についての人材育成の工夫も大事であるとのことでした。教育プログラムの中に他部門理解も含め、作業療法や退院した患者の様子を見てもうため訪問リハビリなどの体験をさせ、必ずフィードバックするようにしているとの情報提供もありました。学生や新人教育においては事例であっても体験していることに対しては自信がもて、実践に活かすことができると一般的に言われています。普段から先輩看護師の退院支援に関わる業務を一緒に行い、体験の機会を増やすことや事例展開など、新人や若手看護師の教育体制の確認とサポート側の姿勢や工夫も大切だと感じ、「地域につなぐ」は職場の教育体制そのものが重要であることを改めて考える場となり、充実した交流会となりました。

